

としは みんな



渡辺 トメさん
(木崎・92歳)

- ① 子供から三回も上方(京都)へ旅行に連れていってもらったことみたいですね。
- ② 八十九歳になる隣りのおばあちゃん、行ったり来たりしてお茶飲み話をするくらいです。な
- ③ 欲を離れてしまったので、なんにもありません。



谷沢 ミセさん
(早通・86歳)

- ① 二十年前に住宅を新築したことでしようか。
- ② 二歳のひ孫を子守りしながら一緒に遊ぶのが楽しみです。
- ③ 目が悪く一人で眼科へ通っているの、早通にも眼医者があつたらなあと思います。



大脇 キヨさん
(上他門・84歳)

- ① 二十三歳の時でしたが、たった一人のそれも生まれたばかりの赤児を残して主人が亡くなったことです。
- ② これといったものはなんにもありません。
- ③ 医者がかりましたことがないし、今以上の幸せはないですね。



窪田 ヤスさん
(内島見・83歳)

- ① 昔、夫がはよりの腸チフスにかかった時ですね。十歳の長男がリヤカーをひいて葛塚まで水を買に行つたんですが、来る途中砂利の坂道が登れなくてねえ。
- ② 年寄り仲間と話をすること。
- ③ 昔の苦勞を思えば、今は何も言うことがありません。

質問事項

- ① 一番印象に残っていること
- ② 楽しみや生活の張り合いは
- ③ いま思っていることなど

の方々に、さまざまな体験や毎日の暮らしぶりなどをお聞きました。



横山ヨシイさん
(兄弟堀・81歳)

- ① 昭和二年に新しく建て替えたばかりの家が丸焼けになったことです。
- ② 縫い物をしたり、まきて風呂の火焚をしたり、子守りをしてりして家のためになることが張り合いのようなものです。
- ③ 年金がもらえて有難いですね。



玉木キヨルさん
(上堀田・80歳)

- ① 四歳の男の子を家の前の駒川で亡くしたことが何十年たつても忘れられません。
- ② 夫婦で達者でいられることがなによりだと思っています。
- ③ 稲刈りでも、昔は一株一株刈つたのですが、今の時代は、ほんね夢みたいですねえ。

とっても 達者です



砂原仁三郎さん
(笠柳・85歳)

- ① 父が早死にしてから急に貧乏になり、十九の時から七年間長野県へ出稼ぎに行つて苦勞したことです。大正のころでした。
- ② 年中農作業が忙しくて趣味はもてないです。
- ③ 昔は正月や祭りのごちそうが何よりの楽しみでしたが……。



鎌田栄太郎さん
(上大口・84歳)

- ① 終戦直後に八人目の末っ子が生まれたんですが、ミルクの配給がもらえなかったことです。
- ② 枯木を磨いて銘木をつくること、それにゲートボールと毎日の晩しゃくでしようか。
- ③ 老人憩の家が休日や夜間でも自由に利用できるというですね。



渡辺 徳松さん
(太子堂・81歳)

- ① 日本は絶対戦争に負けないと終戦の前日まで信じていた。それが負けた。ショックでしたね。
- ② ボケ予防に仲間と将棋を差すこと、民謡をうたうことです。
- ③ 菩提寺も先祖の墓も阿賀野川の向かい側にあるので、目の黒いうちに大阿賀橋ができたらねえ。



星野 松枝さん
(新井郷・76歳)

- ① 二年続いた水害ですね。あの時は本当にご飯が食べられないのではないかと思います。
- ② 自分も含めてみんながゲートボールを楽しむことでしょうか。
- ③ 大正時代、隣近所七軒位でかわるがわる風呂をたてていました。細かな交流ができましたね。



長場 悌治さん
(法花鳥屋・75歳)

- ① やつぱり終戦ですね。当時高校の教諭をしていて、この先若い者をどう指導すべきか心配でした。
- ② 和歌をつくつたり、外国の詩集を読んだりしています。
- ③ 誰しもが、自然に足の向くような、緑の美しい公園が欲しいですね。



島田 善一さん
(早通北3・78歳)

- ① 山の中に疎開小屋を作つていた時、伐採した松の太木が頭の上に倒れてきて屋根から飛び降り、九死に一生を得たこと。
- ② 将棋を差すことと、趣味でカヤの工芸品を作ることですね。
- ③ 年金はもらえるし、望みはありません。